



国 労 福 島 県 支 部

放射線対策委員会ニュース

発行責任者 小松山広幸
編集責任者 小松山 聡

避難解除準備区域の実態を見た！

////////////////////////////////////

原発事故被害の当該地本である水戸地本福島県支部と仙台地本福島県支部は、「国労フクシマ交流会」を継続し、元の福島に戻すために学習と実態の交流をこれまで進めてきた。

避難者の帰還を促すためか、年/20 mSv以下の地域を避難指示解除準備区域とする等、20^μSv圏内が再編される中で常磐線の不通区間もまた広野より先へと運行再開が目まわっている。

その現状を実際に視察しようと、水戸地本の仲間の協力を得て7月7日に仙台から8名が参加して実態を見聞してきた。以下、報告文です。

////////////////////////////////////

行ってみないとわからない事がある

郡山駅 8:00 発の磐東線に乗り込んだ8名の仲間と共に、いわきに向かう。車内は 0.18～0.21 μSv。



9:35 いわき着。駅周辺は 0.13 μSvと郡

山より低い値。水戸地本 6名の仲間と合流し 2台の車に分乗し行動を開始。6号線を北上する。

途中、津波被害で軒並み住宅が流出した地区を通り、改めて被害の大きさを痛感させられ、亡くなられた



方々のご冥福を祈る。さらに北上し、久ノ浜

駅で 0.13 μSv。現在の運行区間終点の広野駅付近

で 0.16 μSv。ここから先は立ち入り禁止区域だった20^μSv圏内に入っていく。

気がつくのは、広野を過ぎた辺りから住民の姿が見えなくなり、車の通行量もめっきり減ってきたこと。

途中、楡葉町の田畑に除染後の廃棄物を仮置きした場所を通る。中間貯蔵施設や最終処分場が決まらない中でやむを得ないとは言え、ものすごい集積量に圧倒される。



富岡駅はあの日から時間が止まっていた

Jビレッジ、第2原発を過ぎ、線量も 0.28～0.4 μSvに上昇してきた。

富岡駅に到着。ここは立ち入り禁止区域だったこと



もあり、津波被害や地震の被害の建物や乗用車、船舶などが片付けられないままの状況。駅舎、架線の壊れ様、線路は草だらけでホーム内に車が流れ着いている。

石巻市の津波被害も視察した経験があるが、放射能



汚染さえなければ、同様に復旧復興が進むのだが…。

あの事故から2年4ヵ月。ここでは時間が止まったまま、人の気配も

なく、遠く海からの波の音と鳥の鳴き声しか聞こえないような静かな時が流れていた。(2面に続く)



国 労 福 島 県 支 部

放射線対策委員会ニュース

発行責任者 小松山広幸

編集責任者 小松山 聡

立入禁止区域の直前 上昇し続ける線量計

富岡駅を過ぎて富岡町内を通行するが、文字通りの「廃墟の町」という印象。本当にこれでは住めない町になってしまった。

国が立ち入り禁止区域の見直しを行ない、今通行している富岡町の辺りは「避難指示解除準備区域」となっている。

確かに家に帰りたという希望があることは事実だろう。しかし、解除の基準が年/20 ミリSv以下というのは緩過ぎだろう。若い世代がこの現実の中で帰還に逡巡するのもやむを得ないと感じた。



さらに北上すると、立入禁止区域のゲートが見えて引き返しを余儀なくされる。驚いたのは、このゲートに近づく1~2キロまでに、車内計測の線量計がグングンと上昇を続けたこと。0.5程度だったのがすぐに1 μ 、1.5 μ Svと上昇し、引き返し直前には2.7 μ Sv！！

車内からの計測で、空間線量的にこんな数字は経験がなく、車外で時間をかけて測定したらもっと高いと思われ、さらにあのゲートの先ではどういう数字になるのかと、ぞっとする思いを持った。

狩野いわき市議より現地からの報告

帰路は薄磯、豊間地区の津波被害状況を見ながらいわきに戻り、狩野いわき市議から「原発事故被害からの運動の現状」を報告して頂いた。

概要として①福島県民が求める全ての原発廃炉について、国と東電は未だに第一原発5・6号機と第二原発1~4号機について廃炉宣言をせず、再稼働も視野に入れていること。増え続ける汚染水処理では、タンク増設も2015年には敷地が無くなること。②除染も中間貯蔵施設が決まらない中で進まない実態と下請け構造のなかで除染の受注が暴力団の資金源化し、ピンはねが横行していること。③健康管理については、避難区域住民に対する健診で(影響が出やすいと言われる)白血病・腎臓・膀胱機能検査行なっているが、この検査を全県民対象にすべきと闘っていること。④損害賠償問題の現状、そして地元民と避難住民とのあつれきが出ている現状などについて詳しく報告された。



全ての日程を終了後、参加者同士の交流会をいわき駅前に場所を移し開催。

全ての報告を記載するスペースはないが、いわき保技セのWさんの報告を掲載する。

『自分は浪江に住んでいたが、そこは現在、居住制限区域。今は5人家族がバラバラな状態で仮設住宅暮らしを強いられている。毎日、夕方になれば家族が自宅に帰り、夕食を食べ、という当たり前の生活に戻りたい。自宅は一時帰宅すれば、4~5 μ Sv位ある。子供も結婚するような年齢になり、本当はそんな話や相談をする頃だろうが、それもままならない。この先、見通しが全く立たない事が一番歯がゆい。』

参加者の殆どが、「実際に目で見てわかることがあり、来て良かった」と感想を述べ、改めて原発事故被害に怒りを新たにしつつ、フクシマを元の福島に戻すための運動を続けていく決意を固めあった。

/// 「国労フクシマ交流会」は今年秋頃に計画中です。///